

首都圏 GW 集客堅調

「体験型」好調、好天も追い風

今年のゴールデンウィーク（GW）の首都圏の主な観光地の集客状況はおおむね堅調だった。海外旅行や国内で遠出する人が多かったが、好天が続いたことが追い風となり、近場の観光施設もにぎわった。新スポット開業や体験型イベント・催事の効果も出たようだ。近場で楽しみたい需要を取り込んだ。

人気アニメ「進撃の巨人」と連携した映像・展示企画を展開中の東京スカイツリー（東京・墨田）では、4月29日から5月7日までの9日間の展望台入場客が15%増えた。昨年は強風で当日券販売を一時休止した時もあった。

スカイツリー 展望台入場客15%増

マザー牧場 「ひっじの大放牧」人気



鴨川シーワールドが開催するシャチのショーは人気だ

だが、今年は天候も良く、特に5月3日からの後半の集客が好調だった。急ぎよ営業時間を最大30分繰り上げ・延長する日もあった。

体験型イベントの人気も堅調だった。千葉県富津市のマザー牧場の来場客数は前年を6%上回った。

富士急行が運営し、アウトドア施設が充実しているさがみ湖リゾートプレジャーフォレスト（相模原市）も14%増。「長い休暇なので海外に行く

首都圏の主な観光地のGW集客状況

| |
|--|
| <p>鴨川シーワールド (千葉県鴨川市)</p> <p>期間中の来場客は1割増。期間限定で販売した割安の早朝入園プランを導入したのが効果</p> |
| <p>さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト(相模原市)</p> <p>3月下旬に稼働したアスレチック型の新アトラクションを中心に、雨予報だった5月6、7日も客足は好調</p> |
| <p>としまえん(東京・練馬)</p> <p>期間中は15%増の6万4千人が来園。初企画のキャラクターショーなどが好評</p> |
| <p>羊山公園(埼玉県秩父市)</p> <p>芝桜の丘は開花が遅れてちょうどGW期間と重なり、観光客が1日平均8千人増</p> |

人が多いと思ったが、併設しているキャンプ場を含めてファミリー層が多かった」（担当者）。

東京ドームシティ（東京・文京）はドーム自体の催事日数減の影響で来場客が1割減ったが、遊園地だけみれば8%増えた。遊園地以外にも4月に開業した大人向け文化発信拠点「ギャラリーアールモ」などが人気を集めて「全体としては堅調だった」（担当者）。

新コーナーの開業効果が見られたのは、鉄道博物館（さいたま市）だ。4月に新拠点「科学ステーション」や「キッズプラザ」が開業したことも

あり、特に連休後半の3〜7日の集客が好調。前年実績を28%上回った。

近場で過ごす人の動きが活発だったことは、鉄道の近距離利用きっぷの間にJR東日本によると、管内の期間中（4月28日から5月7日までの10日）の近距離きっぷ発売

人数が増えている。働き方改革が目ざされ、休みの過ごし方の多様化や休暇取得の分散が進みつつあることも背景にある」と分析している。

枚数は4%増。新宿駅が3%増え、近隣でイベントが開かれたさいたま新都心駅は75%増、蘇我駅も35%増だった。

観光動向に詳しい沢登次彦氏は「GWも混雑を避けて近場でゆっくりしたい人が増えている。観光動向に詳しい沢登次彦氏は「GWも混雑を避けて近場でゆっくりしたい人が増えている。働き方改革が目ざされ、休みの過ごし方の多様化や休暇取得の分散が進みつつあることも背景にある」と分析している。